

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立と社会参加を実現できる人間を育成する。

2 学校の特徴

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部、高等部の肢体不自由の児童生徒と高等部には軽度知的障害のある生徒も在籍し共に学んでいる。通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために、家庭に出向いて訪問教育を行っている。肢体不自由の障害の実態に合わせた校内環境の充実、給食の食事形態の工夫、医療的ケア等を実施しており、通学支援としてスクールバスを運行し寄宿舎が設置されている。

児童生徒一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、生きる力を育み、学校生活において学んだ知識や技能を日常生活においても活かせるよう授業実践に取り組んでいる。また、各種行事や校外学習等を通して社会経験の拡充を図ったり、関係機関と連携したりしながら、児童生徒一人一人の卒業後の豊かな生活を目指したキャリア教育の充実に努めている。さらに、交流及び共同学習（居住地校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

3 学校の現状と課題

- ・本校では、様々な研修などを通して、授業力の向上に努めてきた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、多くの制約の中で学校教育活動を行ってきたため、教員同士が相互に学び合う機会が少なくなった。昨年度の学校課題研究についての教員アンケートには、教員同士の授業参観や内部人材を活用した研修、自由参加型の選択研修など学び合う機会のニーズが多くあった。そこで、効果的な互見授業の方法を工夫したり、内部人材を活用した研修会を企画したりして、教員の指導力向上を図っていききたい。
- ・本校では、インシデント・アクシデント事案が発生した際に、全教職員で共通理解を図ったり、いろいろな事案を想定した緊急対応訓練を実施したりするなど、インシデント・アクシデントの再発防止や緊急時の対応に取り組んでいる。しかし、昨年度までのインシデント・アクシデント事案の中には未然に防げる事案があったり、緊急対応訓練で教職員が自発的に動けなかったりすることがあり、より安心・安全な学校生活の実現に向けた対策に取り組んでいくことが求められる。そこで、過去のインシデント・アクシデント事例を基に、原因と対応について検討したり、アクションカードを使用した訓練を実施して、迅速に行動できるようにしたりすることで、インシデント・アクシデントの未然防止・再発防止の取組を推進していききたい。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1 学習活動	教育課程編成	目標	○各教科等を合わせた指導について、教科等の視点から学習内容を見直し、指導の充実を図る。
		計画	○各教科等を合わせた指導について、目標と学習する教科等の内容を見直す。 ○見直した結果を教育課程に反映できるようにする。 ○各教科等を合わせた指導の考え方や評価方法について研修する。
	教科指導(小学部)	目標	○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、自分から活動できる児童を育てる。
		計画	○児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫し、学習内容の充実に努める。 ○生活力を高めるために、基礎的・基本的な内容を重視しながら、学習に対する興味・関心を大切に学習指導や、教科等横断的な視点での授業実践を行う。 ○様々な体験活動の充実を図り、周囲の人やものに積極的に関わっていく態度や豊かな感情を育てる。
		目標	○人との関わりや生活経験の拡大を図るとともに、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。
	教科指導(中学部)	計画	○必要な情報を学部全体で共有しながら、PDCAサイクルに基づいた授業実践を行い、教科等横断的、系統的な指導の充実に努める。 ○生徒同士で話し合ったり認め合ったりする対話的な活動、自ら見通しをもって学習に取り組む主体的な活動を通して学びが深まるよう、効果的な学習形態や指導方法を工夫する。 ○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して、体力や健康状態に応じた学習方法や学習環境を工夫する。
		目標	○自立と社会参加に向けて、人との関わりの中で社会生活能力を高めるとともに、意思をもち主体的に物事に取り組む生徒を育てる。
教科指導(高等部)	計画	○生徒の実態の捉え方や進路指導の進め方の知識を高め、生徒一人一人の障害に基づく困難を捉え、現在及び卒業後に必要とされる資質・能力を高められるように、担当者間で連携して指導に当たる。 ○集団活動や人と関わる場面を設定し、自分の考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりする経験を積むことで、社会性の伸長を図り、自ら周囲に働き掛けようとする態度を育てる。	
	目標	○生徒の能力や個性を大切にして、年齢やニーズに応じた支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに、人との関わりを広げ、自ら取組もうとする意欲を育てる。	
教科指導(訪問教育)	計画	○生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢と発達段階に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。 ○家族や医療機関との連携を密にするとともに、ICT機器や遠隔教育システムを活用して通学生と合同で学ぶ機会を設け、訪問教育の充実を図る。	
	目標	○児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践の充実を図る。	
研修	計画	○内部人材を活用し、指導力向上につながる選択制のオーダー研修会を実施する。	
重点Ⅰ			

			<p>○互見授業期間における授業実践の公開及び参観を通して、指導方法や指導内容、教材について学び合ったり、児童生徒の言動をもとに授業者、参観者相互の気づきを共有したりする。</p>
		ICT 機器活用	<p>目標 ○児童生徒の実態や障害の特性を踏まえたICT機器を活用した指導を推進する。</p> <p>計画 ○教員のICT活用能力向上を図る研修や互見授業を計画的に実施する。</p>
2	学校生活	保健管理 重点2	<p>目標 ○児童生徒が健康、安全に学校生活を送れるよう実態に応じた健康管理の充実に努める。</p> <p>○事故を未然に防止する視点をもつとともに、緊急時の対応における救急体制の整備と、対応訓練の充実に努める。</p> <p>○医療的ケア等を安全・安心に実施する。</p> <p>計画 ○毎日の健康管理や保護者との情報交換により児童生徒の生活習慣や健康状態を把握して、基本的な生活習慣の育成や個に応じた健康の保持増進に努める。</p> <p>○インシデント・アクシデントへの気づきを促す取組により安全意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境の改善に努める。また、緊急対応アクションカードを用いて緊急対応訓練を行う。</p> <p>○医療的ケアの実施体制及び、医療機関との連携を含めた緊急体制を教職員に周知する。</p>
		生徒指導	<p>目標 ○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。</p> <p>○災害時における組織的対応力を高める。</p> <p>計画 ○ネットトラブルやいじめ等、社会における生徒指導上の諸問題の実情を情報収集し、全教職員で共通理解を図り対応や指導を行う。</p> <p>○危機管理マニュアルなどで、教職員全体で共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。</p>
3		進路支援	<p>目標 ○進路啓発の取組の充実に努める。</p> <p>計画 ○個に応じた進路選択・決定ができるように、必要な福祉・進路情報を収集し、提供する。</p> <p>○小学部、中学部、高等部が連携し、各年齢段階に応じたキャリア教育を推進する。</p> <p>○関係機関と連携し、企業及び福祉事業所の開拓を積極的に行う。</p>
4	特別活動	特別活動	<p>目標 ○児童生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>計画 ○学校行事や児童生徒会執行部が企画する行事、各専門委員会の活動を通じて、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。</p>
		学校図書室	<p>目標 ○読書環境を整備する。</p> <p>○図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。</p> <p>計画 ○各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備する。</p> <p>○読み聞かせや読書活動を促して、図書に親しむ機会を設ける。</p>
5	その他	寄宿舍部	<p>目標 ○一人一人の実態に応じた生活支援を行うとともに、生活力の向上を図る。</p> <p>○安心安全に生活するための支援及び緊急時の安全確保について確認し行動できるようにする。</p>

	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や学校と情報交換を密にし、連携を図りながらスモールステップの目標を設定し取り組む。 ○健康で安心できる生活を送るための対策をとるとともに、緊急時にスムーズな対応ができるように宿直時の体制確認や様々な想定の実演訓練を重ねる。
教育支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のセンター的機能の充実を図るとともに、適切な就学につながる情報提供や教育相談を行う。 ○個別の教育支援計画を活用して、関係諸機関との連携を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○就学・進学の仕事についての理解を促すとともに、保護者の心情を理解した教育相談に努める。 ○特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援や障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修会等への参加や事例検討を行い、専門性の向上に努める。 ○個別の教育支援計画を使って、支援の具体的な内容や合理的配慮などについて関係諸機関と情報交換し、効果的な支援が行えるようにする。
図書情報 (学校HP)	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育活動への理解啓発を図るため、日々の授業や行事等での活動の様子を含めた様々な情報を積極的に発信する。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各学部や分掌と連携し、日々の学習の様子や情報を発信する。 ○学校HPの更新を積極的に行い、必要な情報を発信する。
PTA 活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動の在り方を見直し、活性化を図る。
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA役員と担当教員との連絡・調整を密にし、活動内容の充実を図る。 ○PTAの役員会や行事等において、機会を捉え、保護者のニーズを聴く。 ○PTA活動について全教職員で共通理解し、必要な協力を行う。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 - 研修部	
重点項目	学習活動－研修
重点課題	「教職員の指導力向上」
現 状	コロナ禍により、教職員相互に授業を参観し合い、学び合う機会が大幅に減少している。また、昨年度行った学校課題研究に関する教職員アンケートの結果から、より専門性の高い指導力を身に付けるための方策として、「内部人材の活用」「授業参観」「自由参加型の選択研修」などが求められていることが分かった。
達成目標	選択制オーダー研修会 一人一つ以上参加 互見授業実施後の授業参観シートの質問「指導力の向上につながった」と回答した割合が 80%以上
方 策	<p>【選択制オーダー研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が日頃抱えている悩みや疑問を基に、共に学び、考え、解決したい事柄を把握し、ニーズが高かった内容から、本校の教職員を講師とした数種類の研修会を提案する。 ・夏季休業中を中心に研修会を行い、一人一つ以上選択して参加し、専門性を培う機会とする。 <p>【互見授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互見授業期間を設定し、一人一つ以上の授業を公開及び参観する。 ・授業者は、公開する授業科目・日時・単元名・「主体的・対話的で深い学びの視点」を、「授業公開希望一覧表」に入力する。研修部は月ごとに「授業公開希望一覧表」を掲示する。 ・授業参観シートを用いて授業者、参観者相互に意見・情報交換を行い、指導方法や支援方法について理解を深め、授業改善に生かすようにする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和5年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 - 保健部	
重点項目	学校生活－保健管理
重点課題	「インシデント・アクシデントの未然防止と再発防止対策」
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデントの中には未然に防げる事案があり、見逃すと重大な事態になってしまうアクシデントの発生につながる事案がある。 ・インシデント・アクシデントが発生したときに、対応を迅速に行い、被害を最小限に抑えることが重要であるため、毎年、緊急対応訓練を行っている。しかし、職員間に「緊急時、誰がどのように動けばいいのかわからない」といった不安があった。その対応策として、昨年度、緊急対応アクションカードを作成した。
達成目標	インシデント・アクシデント防止のための研修会 年2回以上 緊急対応アクションカードを用いた緊急対応訓練の回数 年3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態や行動から想定される緊急場面とその対応について考えることにより、危機管理意識を高め、事故を未然に防ぐ視点で学習環境を整えることができるようにする。 ・医師から救急搬送の指示が出ている児童生徒とその状態について共通理解を図り、緊急時に適切な対応ができるようにする。 ・過去のインシデント・アクシデントの事例を基にグループワークを行い、原因と対応について整理したり、検討したりすることで、事故の未然防止・再発防止に対応する力を身に付ける。 ・緊急対応アクションカードを使用して対応訓練を行うことで、緊急時に、迷わず迅速に行動できるようにする。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）